

令和2年度に福井県内で行われた発掘調査の概要

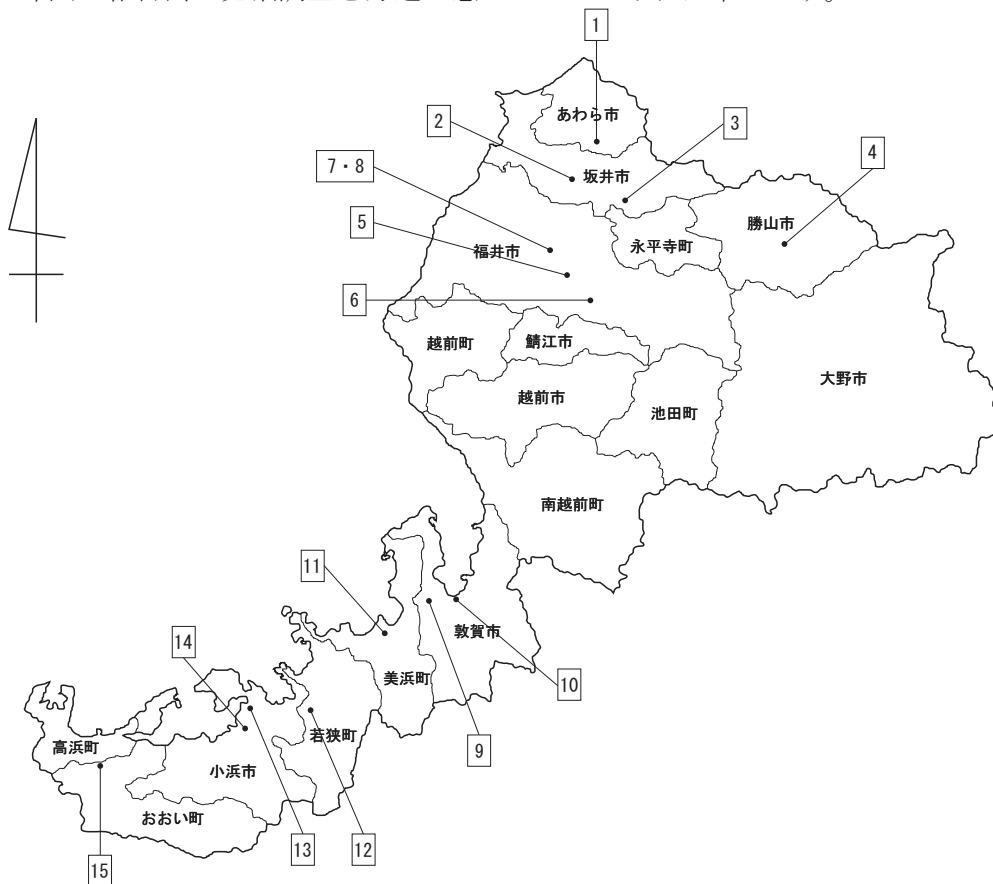
令和2年度に行われた発掘調査は、県事業が7件、市町事業が8件の計15件でした。

嶺北地方では、坂井市長崎遺跡と勝山市勝山城跡・袋田遺跡の調査成果が注目されます。

称念寺周辺の長崎遺跡では、室町時代後期から江戸時代前期頃の区画溝や道路、屋敷跡が確認されています。商いに用いられる竿秤さおばかりのほか、茶道具の瓦質風炉がしつぷろが多く出土し、当時栄えた街並みの様相が明らかになりつつあります。勝山城跡・袋田遺跡では河原石を用いた多くの井戸や石積遺構が確認されたほか、勝山市域で初めて笏谷石製の平瓦つげふだもっかんや付札木簡が出土しました。石を用いる遺構の多さから、勝山における石の文化がうかがえます。

嶺南地方では敦賀市沓見遺跡の調査で、平野西部の弥生時代から古墳時代の様相が明らかにされました。古墳時代中期の須恵器すゑきは、大阪の陶邑古窯跡群すゑむらやうしぐんなどで生産され運ばれた可能性があります。また西塚古墳では、北陸地方最古級の人物埴輪にんぶつはじりんや馬形埴輪うまがたはじりんが出土しており、注目されます。古代の遺跡は公文名松ノ木海道遺跡が注目されます。9棟の建物のなかの竪穴式住居たてあなしきじゆうきよからは、祭祀さいしに用いられたと思われる赤彩土師器せきさいはじきが出土しました。このほかにも、円面硯えんめんけんや転用硯てんようけん、刀子とうすや砥石といしや鉄滓てつさいなど鍛冶工房かじこうぼうに関する遺物がみられるため、鍛冶工房とそれに伴う公的施設であると思われます。

以上のように、令和2年度も、県内各所で発掘調査が行われており、多くの成果が得られました。今回の報告会で発掘調査を身近に感じていただければ幸いです。



令和2年度県内発掘調査地点（目次番号と同じ）